



かもしか病院 in
パーラーパチンコかもしか



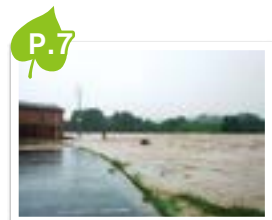
介護老人保健施設いっつく
秋祭り



いちごの時間(とき)



働いている人に聞いてみよう！
いっつく 2 番館



平成 23 年 7 月
新潟・福島豪雨

あなたとともにできることところとからだにくつろぎのいっつく

<http://www.shitada.jp>

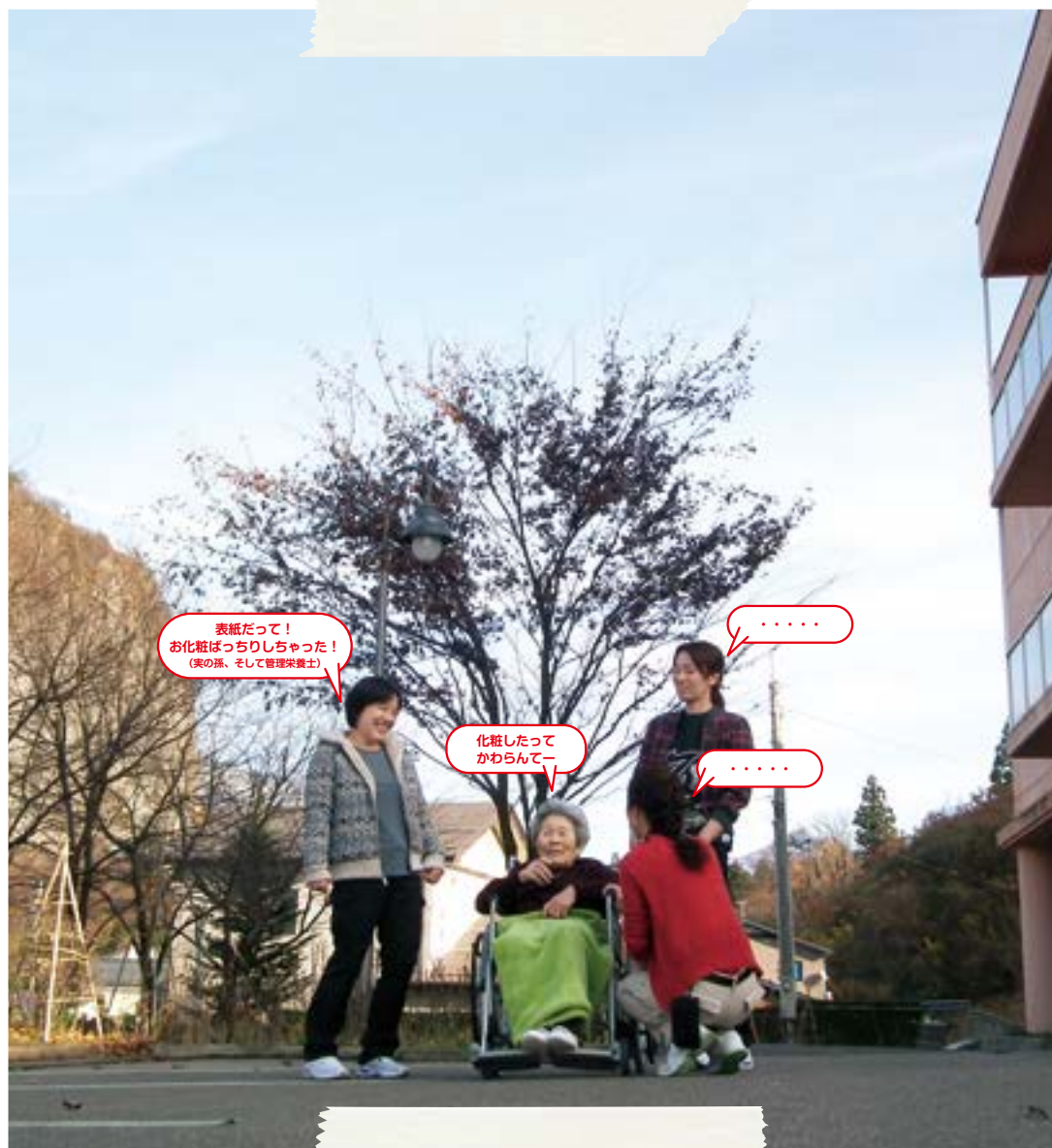
いっしょに

医療法人社団しただ 広報誌 2011年度号



しただ

訪問看護ステーションとんぼ
介護老人保健施設 いっつく
かもしか病院
介護老人保健施設
いっつく 2 番館



表紙だって！
お化粧ばっちりしちゃった！
(英の孫、そして管理栄養士)

化粧したって
かわらんてー

.....

.....

秋も深まった、ある日



下田、かもしか病院近くの北五百川地区に「日本の棚田百選」に選ばれた美しい棚田があります。里山の雪も消え、暖かい日差しがまんべんなくそそぐ頃に棚田も田植えが始まります。

P2 「いっしょに」

こころとからだにくつろぎのいっぷく

かもしか病院 in パーラーパチンコかもしか



本来ならば前号に掲載すべき記事ですが、前号の誌面の都合で掲載が今号となりました。当法人の理念が大きなご協力を頂いて「カタチ」になった一例です。

一般的にですよ、病院と呼ばれる施設に一番縁がなさそうなものってなんでしょうかね。パチンコもその一つだと思うのですが、このほど、かもしか病院にパチンコ店がオープン、いや言い過ぎました。パチンコ台が寄付されました。

かもしか病院5階に設置されたというパチンコ台。早速行ってみることにしましょう。

5階のエレベータのドアが開いた瞬間！おお、これはパチンコ店の音響！音ではなく大音響！一瞬場所がどこかわからなくなる錯覚を覚えました。

写真からは当然音は感じられませんがたった2台なのに、パチンコ台の音楽とパチンコ玉のあの、「じゃらじゃら」という音でもう完全に「パチンコパーラーかもしか」になっています。

そしてご利用者の様子ですが、もう夢中であります。

療養生活の中で様々なレクリエーションが企画されていますが、このパチンコはそのレクリエーションの心強い味方になりそうです。



そしてこのパチンコ台、パチンコ玉が循環式になっており、更に上皿には見慣れない金属製の管があります。

これは通常、玉が無くなったら下皿から上皿に手で玉を移し変えなければならないのですが、レバー一つで玉が補充される、かもしか仕様なのであります。

そしてそもそもこの特別仕様のパチンコ台、実は寄付を頂いた物なのです。

かもしか病院の医師でもある理事長北澤の担当ご利用者が、大のパチンコ好き。しかしそのご容態がパチンコ店への外出を許さず、北澤もはがゆい気持ちで思索し、この話を三条信用金庫さんにお話したところ、話がまわって、ヴィームスタジアムを経営するアサヒグループ・ヴィームスタジアム株式会社さんに届きました。

そして会長佐藤様、社長永井様のご尽力でこのような「カタチ」となったのです。

ヴィームスタジアム株式会社さんには本当に感謝です。ありがとうございました。

そしてこのパチンコ台、もちろんご利用者のためであり、職員はヴィームスタジアムに足を運んで打っていただきたいのですが、あれ？



はい。理事長の北澤であります。



2011年の夏はいろんなことがありました。
この2つの写真のうち、左の写真はいつもの新潟の夏の粟ヶ岳なのですが台風6号のフェーン現象で、極度に乾燥した空気が新潟に流れ込みました。同時刻に撮った右側の写真も、空気中の水蒸気が少ないせいでくっきりと。目が良くなったかと思うほど、でした。
しかしその20日後、まさかの出来事が下田を襲う事になるとは。(P7に詳細を掲載しました)

「いっしょに」

こころとからだにくつろぎのいっぷく

P3

介護老人保健施設いっぷく 秋祭り

そんなもしか病院のパチンコ台ですが、ここまでの物を病院だけに置いておくのはもったいない、という事で、またまたアサヒグループ・ヴィームスタジアム株式会社さんをお願いし、1.2km離れた、介護老人保健施設いっぷくに移動してきました。

そんなパチンコ台が最大限に効果を発揮した日。それが老健秋祭りでした。

一時的ではありますが、この屋外に置くセンス。パチンコ台が醸し出す大音響がお祭り気分を盛り上げます。



そしてパチンコに興ずる皆さんもなかなかいい顔をされています。

この日はお祭りにつきものの「やきそば」や「かき氷」なども提供いただきましたが何と言っても祭りといえば！ きいろの泡の出るシュワシュワとした、「くっ」とやると美味しい物！

ご提供させて頂きました。

まさに至福、というシーンでしょうか。お相手して頂いているのは研修でいらした三幸福祉カレッジの学生さんです。こちら楽しそうです。幸せや笑いの伝播速度は早いという事ですが、この写真を撮っていた私も非常に楽しかったです。

ご利用される方々の生活の質が上がると、それが伝播し、我々の生活の質も上がるような気がします。

こんな話もあります。

「ある人が幸福な友人を持つと、その人が幸福になる可能性は約9% 増大する。」

(つながり 社会的ネットワークの驚くべき力：ニコラス・A・クリスタキス / ジェイムズ・H・ファウラー共著)

こんな笑顔をたくさん見ることができ環境を醸し出していきたいものです。





秋が深まりを見せ、下田の木々が色鮮やかな頃になると、シベリヤなどから白鳥が多い時で 200 羽ほど、五十嵐川に飛来します。

湖や沼などに飛来するケースがほとんどの中、川にて越冬するのは珍しいとのこと。

P4 「いっしょに」

こころとからだにくつろぎのいっぷく

いちごの時間（とき）

I じいちゃんはとてもわがままなおじいちゃんでした。

もしか診療所（現在のもしか病院外来）は山深い所にあり、毎朝送迎車でご利用される方々をご自宅まで迎えに行き、診療が終わると再びお送りしています。

ある日突然、「今 S 市の S 総合病院の玄関にいるからすぐに向かえに来て欲しい」と電話が来ました。電話の主はあの I じいちゃんでした。

その後も悪びれた様子もさらさら無く、診療が終わると「T 市の整骨院まで送って欲しい」とのたまわれます。

毎日のように診療所に来ては、周囲のお年寄りに、若いときの自慢話や色んな説教を繰り返し、少々鼻つまみ者状態でした。

それでも 80 才はとうに過ぎているとは思えないバイタリティに満ちており、いわゆる元気な、ちょっと呆けたおじいちゃん、憎めない所もちゃっかりと備えていました。時にはあまりのわがままさから、家族とうまくいかず、「整体マッサージにかかるから」と言ってホテルに泊まり込む日々もありました。周りの人には家に帰れない状態とも言えず、「ちょっとホテルで静養しているのである」と待合室で自慢げに話しているのが聞こえました。

そんな I じいちゃんももしか診療所の為には一生懸命でした。

ある日曜日、診療所の前庭で一生懸命に大きなそてつを植えているあやしげな人影が有りました。

近づく、I じいちゃんが一生懸命に土を掘り返していました。

「診療所の庭にそてつを持って来てやったよ、心配だから自分で植えるんだ」と振り向きもせずに植えています。

後日、自宅の庭から勝手に抜いてきたものと判り、ご家族にお詫びの連絡をとるはめになりましたが。

冬も厳しいある日、I じいちゃんは診療所の待合室で意識がなくなりました。

周りのお年寄りは、「また、いつもの発作のまねだよ」等と言っていますが、さすがに点滴をして、救急車で病院に入院して貰いました。この頃から、I じいちゃんも入院が長びくようになりました。

自宅に退院してきた I じいちゃんは、手足もほとんど動かない寝たきり状態で、鼻からチューブが差し込まれていました。

その日から、私の往診が始まりました。そして過疎の村にも分け隔て無く暖かい日がさすようになった頃、I じいちゃんの様態は少しずつ悪化していき、お迎えが近くなって来ました。

ある日往診すると、ここ 2～3 日でお迎えが来る様子で、日中一人で面倒見ているはずのおばあちゃんにその事をお話しました。その夜は緊急の電話が来るかと心配していましたが、無事に一夜が過ぎました。

翌日行くと I じいちゃんの様態は更に悪化していました。しかしそばにいるはずのおばあちゃんがいません。さいわいどこからか戻ってきたおばあちゃんに事情を説明し、I じいちゃんのそばについて欲しいとお願いして帰ろうとすると、両手いっぱいの一いごをおみやげにと差し出されました。

なるほど、往診に来たときにおばあちゃんがいなかったのは、畑にいちごを摘みに行っていたのだと判りました。次の日行くと、またおばあちゃんがいませんでした。往診が終わり、帰ろうとすると台所からおばあちゃんが出てきて、小さなボールにいっぱい洗ったいちごを黙って手渡してくれました。

「I じいちゃんはいよいよ最期だから、一緒にいてあげてね」言い残して帰りました。

また翌日往診に行くと、やはりおばあちゃんはI じいちゃんのそばにはいませんでした。暖かい日で散歩でもしてるのかなと思っていると台所でぞぞそと音がします。帰り間際に小さなタッパーに詰められた暖かい、作りたてのいちごジャムを差し出しながら「先生、いちごジャム食べるかね」「じいちゃん、もうすぐらかね」とぼつぼつと小声で聞かれました。

「うん、いちご有り難う」「じいちゃんはもうすぐだ」と答え、暖かくていい匂いのするいちごジャムと共に家を出ました。

どうして危篤のI じいちゃんと一緒にいてくれないんだろう。やっぱりあれだけわがままだったから、面倒を見るのが嫌なのかなと勝手に考えていました。

次の日も往診に行きました。さすがに今日明日という状態に陥っており、最期は一緒にいてあげてねとおばあちゃんに頼もうと家の中をさがしたら、うす暗い台所の椅子にぼつんと寂しそうに座っていました。とても甘い暖かい香りのする台所でした。

「ほんのもうちょっとでお迎えが来るからね」と言い伝え帰ろうとすると、おばあちゃんは大きなボールにいっぱいの、作りたてのいちごジャムを手渡してくれました。

「いちごは全部摘んだ、先生が往診に来るのも今日が最後だと思うから、いちごは全部ジャムにしたんだ」。

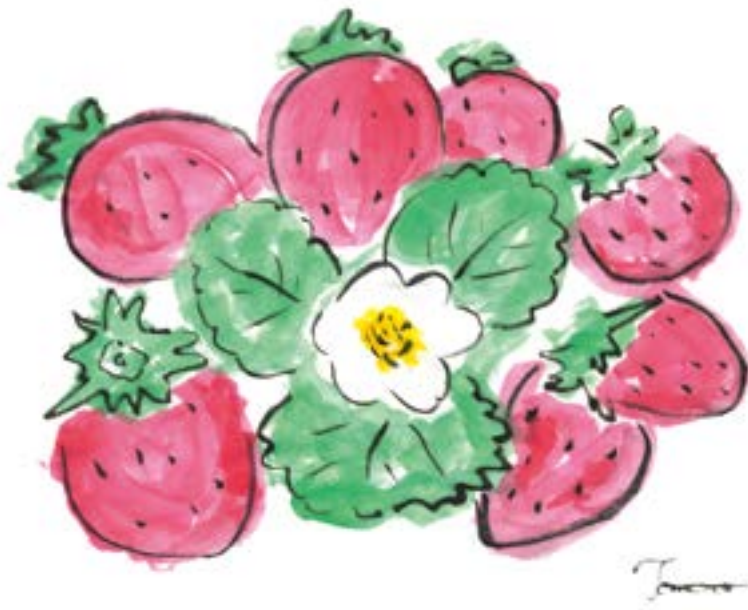
翌日は死亡診断となりました。自宅の南向きの暖かい自分の部屋で、I じいちゃんは眠るようにしていました。その脇でおばあちゃんはじっと涙をこらえて無言でしっかりと付き添っていました。

自宅でお年寄りが療養し、お迎えを向かえて行くことは、大切な事だと誰もが認めるところ。しかし、実際に身近なご家族は、結局どうしていいのか判らないのが本当の姿だと気がきました。

お迎えを待つI じいちゃんに何もしてあげられないおばあちゃん。でも何かしていなければ気が済まないおばあちゃん。精一杯自分のできることで、心はI じいちゃんの事を心配し、十分に面倒を見ることができない自分を見つめていたのです。

暖かい、いちごの季節になると、本当はととてもとてもI じいちゃんの事が好きで、自分なりにおじいちゃんとの最期の日々を、精一杯に過ごしていたおばあちゃんの事を思い出します。

北澤幹男





新潟県でも下田地域はかなりの豪雪地帯であることは間違いなくと思います。

日差しが差し込む日数も12月下旬を境に減ってきますが、この雪がないと良いお米が作れない、というお話です。また時折の日差しが美しい風景を創ってくれます。

P6 「いっしょに」

こころとからだにくつろぎのいっぷく

働いている人に聞いてみよう！

介護老人保健施設いっぷく2番館 高橋介護士 山下作業療法士に聞く！



本日はお忙しい中お時間頂きありがとうございます。

最初に介護職高橋さんから、「介護職」という職業を選ばれ、そして高齢者医療を選ばれた理由を教えてください。

高橋：はい、今は亡き祖母が自宅で車の介助や排せつ介助等が必要となり、どのように接したら本人が安心して過ごせるかを知りたく、それがきっかけで介護職に興味をもち、この職を選びました。そして私、友人に介護職が4人もいますよ。

4人！異なる施設の介護職が一堂に会したら、いろんなお話、できます？

高橋：うふふふ。しますね、いい面も悪い面も。いいように2番館にフィードバックできればいいんですけどね！

山下：私はですね、え～、資格を取って手に職をつけようと考え、今の作業療法士を選びました…。高齢者医療を選択したのはリハビリを通じて様々なレクリエーションが行える、入所生活が楽しめる、そんな色々な事にチャレンジできると思ったからです。

えええ？なんか成り行きらしきご発言ですが。

山下：結果的にそのように受け取られてしまいますが、学生時の研修で老健いっぷくでお世話になり、その際に悪い印象はなく、そしていっぷく2番館が新規開設するというお話、そしてお誘いも受けて。開設時のスタッフなんてめったに経験できることではないと、申し込みました。これまた結果的に開設時スタッフはものすごく大変でしたが。

今現在のお仕事において、大変だな、もしくは嬉しいと感じる場面、教えてくださいか？

高橋：ん～、大変というより、心苦しい場面なんです。認知症の方で帰宅を何度も訴えられて、そのたびに傾聴するんですけどすぐには帰宅の対応がむずかしい場合や、また食事でも本人が希望されている物を食べて頂きたい、でも病状でそれがかなわない。そのような場面でしょうか。でもその反対で、普段表情が乏しい方が働きかけによって笑顔を見せてくれる。これは本当にうれしいですね。

山下：一言で言うと「人間関係」なのですが、職員同士だけでなくご利用されている方々とも、もちろん人間関係があり。その人間関係もこのような施設だと入所されている方も期間が長くなりますし、より深いものになります。突き詰めて考えるとなかなか、ですね、もちろんやりがいもありますよ！仕事上でのうれしい時なんです。当然ご利用者やご家族が満足されるのは嬉しいですけども、加えて職員同士も表情がいい時が一番うれしいですね。やっぱり一緒に仕事をしているので表情がいいご利用者の雰囲気を含めて自然に良くなるものですね。何はともあれそこからです。笑顔の連係、ですかね。

お仕事において、常に心がけていることがあったら教えてください。

高橋：可能な限り、入所されている方に張り合いを持って頂けるように心がけています。声かけから始めて。表情が乏しい方も言葉を発せられない方もいっしょにいますが、そこはお付き合ひの中で感じ取れるようにして。

山下：最初に、当然ですが年配の方を敬う、といことを心がけています。その後はやはり笑顔が見たい。笑って頂くにはこちらがそのように笑顔でなければいけないのは当たり前で、そうすれば表情豊かに楽しんでいただける、そうすれば職員さんにも波及していくのではないかと。とりあえず自分からやらないと始まりませんよね。人と接することはいわば恋愛ですよ、恋愛。とおっしゃっていましたよね！奥山事務長！

最後に。高橋さんは介護職をこの先ずっと続けようと、

高橋：思いますよ！当たり前ですよ！介護好きです。介護大好きですよ！

(一同：おおおお～！) え、私大好きですよ、すごい好きですよ介護！

本日はお忙しい中ありがとうございました！



平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨

2011 年 7/29 から大変な豪雨が三条市下田地域を襲いました。のちに平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨と名付けられました。

もしかか病院では 29 日、午前 10 時ごろに敷地内にて排水できなくなった雨水が病院の何か所かで浸水したのですが、排水溝等を工夫することですぐに水は引き、これでこの騒ぎは終わったと誰もが思っていたのですが。



夕方、あちこちで豪雨のため土砂崩れが発生し道路が寸断され、もしかか病院周辺地域が孤立状態になりました。職員も帰るに帰れず、近隣の方々も避難されてきました。

深夜 3:30 頃、予想だに wasn't 浸水が始まりました。屋内の浸水状況の写真はある程度水が引いた後に撮影されたものですが床上浸水は 47cm にも達しました。



この状況を受けて、2 階病棟に入院されている方々を 3 階に移って頂く等、あわただしい状況となりましたが、幸いにも当法人において、ご利用者、職員に人的被害はありませんでした。ただ、この豪雨で新潟にて 4 名の死者が出る災害となりました。

ご冥福をお祈りします。

最後になりましたが、この災害においてあたたかい援助の手を差し伸べて頂いた周辺地域の方々、協力会社御一同に感謝いたします。

本当にありがとうございました。



医療法人社団しただ

- 訪問看護ステーションとんぼ
- 介護老人保健施設
いっぱく
新潟県三条市長野 337 番地
- かもしか病院
新潟県三条市南五百川 80 番地
- 介護老人保健施設
いっぱく 2 番館
新潟県三条市常織 800 番地



いっしょに 医療法人社団しただ広報誌 2011 年度号

発行
医療法人社団しただ
この広報誌に関するお問合せは
以下までお願いします
955-0128
新潟県三条市南五百川 80 番地
TEL 0256-46-0452
FAX 0256-46-0457
かもしか病院内 5F
医療法人社団しただ総務部

オフィシャルウェブサイト
<http://www.shitada.jp>
オフィシャルブログ
「しただブログ」
<http://shitada.blog-niigata.net>

法人理念

こころとからだにくつろぎのいっぱく

ケア方針

1. 寄り添うケア
生活を一緒にする中で、その人の生活のペースを大切にします。
ふだんの 1 日 1 日を大切に過ごします。
2. 元気になるケア
人は麻痺や老化で元気がなくなるのではありません。
年をとって麻痺したからだを持ってまで生きたいという気にならないからです。
その人の元気を取り戻すケアをします。
3. 知るケア
人にはそれぞれ生きてきた歴史や人生があります。
その方を知る努力をし、個性を大切にします。

広報誌名「いっしょに」のタイトルについて

わたし達は一日の中で誰かといっしょに行動する機会が必ずあるのではないのでしょうか。一人暮らしの方でも会社や学校、地域のコミュニティなどでどなたかといっしょに行動するでしょう。
そして生まれてくるときも一人ではありません。
しかし現在の医療施設で、入院／入所となると、家族と切り離され、相部屋であっても「ひとり」のイメージがつきまとう気がします。
当法人では施設であっても家庭のような心暖まる場所にしたい、そんな理想を持って運営しています。そのような想いをこめた名前です。



よりそっている姿を表現しました。
当法人パンフレット表紙に使用しています。

